

うやなぎ

能登半島地震を教訓に 災害に強いまちづくり



植柳校区
住民自治協議会

会長 鑄山元生

校区の皆様、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から校区の行事に温かいご支援、ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

昨年は、校区のイベントであります植柳ふるさと祭り、ふれあい祭り、植柳神社秋の大祭と五年ぶりに念願がかない、無事開催することが出来ました。これもひとえに校区の皆様のご協力の賜物と感謝しているところです。



さて、正月早々、能登半島地震が起きました。熊本地震や球磨川豪雨災害が思いおこされます。国や県、他県の援助を受けながら、一通りの復興を遂げることが出来ました。

私達が住んでいる校区は、日奈久断層が近くにあり、被災する可能性は強く、災害が発生したら、どうしたらよいか対策を講ずることが大切です。

本年は、能登半島地震を教訓に、知恵や工夫を出し合い、安全安心を目指し、防災意識を高めるとともに、防災を重視した災害に

強いまちづくりを重点目標に掲げ頑張ります。

昨年、コロナ感染症が五類に移行されて幾分か気分的に違いますが、この四年間のフロンクはなかなか取り戻せないと思いますが、チーム力を生かし、気を引き締め、頑張りたいと思います。

今年の干支は辰年。辰年は過去の大きな出来事が活気づく年になるといわれています。また、中国では、龍は神の使いともいわれています。

本年も皆様にとりまして、希望に満ちた一年になりますように、心から祈願致しまして、年頭のご挨拶と致します。

発行責任者
会長
鑄山元生

植柳校区人口
(令和5年12月現在)
男 2,063名
女 2,324名
計 4,387名
(-36名)
※令和5年4月末より



どんどや 1/7

(植柳小前河川敷)

どんどやや、「左義長」「どんど焼き」とも呼ばれ、小正月の1月15日火祭りの行事。
1年の無病息災を祈念しておこなわれる。

昨年の市民体育祭大健闘

- グラウンドゴルフ大会(女子) **優勝**
- グラウンドゴルフ大会(男子) **準優勝**
- バレーボール大会(女子) **二位**
- ソフトボール大会 **準優勝**
- 陸上競技(男子) **優勝**
- 陸上競技(女子) **四位**
- 陸上競技(総合) **二位**



市政協力員の大会

市政協力員グラウンドゴルフ大会 **優勝**

植柳ふれあい祭り

今年度、コロナウイルス感染者数もだいぶ落ち着き、校区のメイン行事の一つである「ふれあい祭り」が、四年ぶりに行われました。約四百名の参加者でにぎわいました。

【展示部門】

(上)



(大樽寺町)

(上)



(下)

(正面)



(下)



【ステージ部門】

(いづみ保育園)



(三 中)

(植柳幼稚園)



(白百合学園)

(植柳小学校)



(かあちゃんず)



(さくらぎ町)



(上)



(さくらぎ町)



植柳ふれあい祭りを振り返って

昨年の十月十日、四年ぶりに植柳ふれあい祭りを開催しました。

天候に恵まれ、多数の来場があり、賑やかに過ごされました。



開催に当たり、事務局の皆様が初めての任務でも苦心されましたが、卒なく準備がなされ、充実したふれあい祭りになりました。お疲れ様でした。

会場では、各種団体によるおもしろい作品展示、植柳幼稚園、いづみ保育園、植柳小、三中、白百合学園高校、下町・二町内、元町町内の皆様によるステージ発表が行われました。ご出演、ご出演、本当に有難うございました。



一般ダンスの演技では、各町内会長、推進団体役員が飛び入り参加があり、大いに盛り上がりました。

バザーでは、体協によるカレー販売、少々高いという声もありましたが、一流ミニシヨウ並みの味に納得と好評のうちに定売しました。女性部の皆さんが作ったせんどうもあつといつ間に売り切れました。

最後は、空くじなしの抽選会に幕を閉じました。

防犯・交通安全協会の方々には、交通安全整理、安全管理に気を配られ、無事故であったことに感謝申し上げます。

今後、植柳ふれあい祭りが校区のイベントとして未永く受け継がれることを心より願っています。

女性部長 永松 清子

植柳小創立一五〇周年にあたって

植柳小学校は、今年、創立一五〇周年を迎える。明治七年に、仮屋人吉藩の倉庫をもって植柳学校として出発する。

二十四年後、明治四十年に松井別邸跡、現在の栽柳園である敷地内に建てられた。児童数三百四十三名。

大正十四年（今から九十八年前）に旧講堂が完成した。ギリシャのパルテノン宮殿を思わせるような左右対称のコンクリート建築で、当時の姿を伝えている。

昭和十年（今から八十八年前）現在建っている校舎の所に新校舎ができた。当時の児童数は七百六名である。この年に、かの有名な北原白秋の作詞、山田耕稼の作曲によって校歌がつけられた。校歌の二番に「蔽櫃と映せ影よとの一節があるが、白秋が「蔽櫃」の名付け親である。蔽櫃の蔽は「神聖な、尊い」の意味があり、櫃は櫛の木である。つまり、「清められた神聖な櫛の木」という意味である。

当時、本校卒業生であり、初代市長であった坂田道夫氏が、県内には数台しかないピアノを寄贈された。道夫氏の回顧録には、「栽柳園を訪れると気持ちがおどる」と書かれている。

三十四年は、ベビーブームで見聞数が四八四名と最高である。

また、植柳校区の宝である国指定文化財でもある植柳盆踊りが現在も運動会で披露され、後世に受け継がれている。

(文責 森山)



植柳小新築竣工記念 (昭和10年9月18日)



清明の池

植柳の子ども達に 心のふるさとを

球磨川の河川改修に伴い、栽柳園への取水が球磨川本流から地下水に変更されました。それから、五十年近くが経過しようとしています。当然、流れる水量も少くなり、清明の池や白鳥の池の水質は悪化し、下流域の水路に面した地域では悪臭などの声も上がっています。

このようなことから、「栽柳園を蘇らせる」をコンセプトに、栽柳園だけではなく、下流域も含めた環境を改善する取り組みに向けた気運が高まりました。そこで、「栽柳園保存期成会」が立ち上げられました。

期成会による栽柳園内の水路の整備等を活動していく中で、「ホタルの飼育が可能でないか」との声が上がりました。そこで、「ホタルのつばきプロジェクト」を発足し、更なる水路の改修やえさとなるカワニナの放流と飼育、藻場の整備など、ホタルの生育環境の整備を展開してきました。

令和二年十二月から取り組んできた活動により、心環境の整備が進み、本年一月十二日にホタルの幼虫を放流しました。放流を前に植柳小学校二年生の児童に披露したら、「気持ち悪いな」「これが光るホタルになるのかな」「幼虫も光ったりするのかな」「どれくらいでホタルになるの」など興味を持って、のぞきこんでいました。

これまで、地域会員の知恵と行動力で推進してきました。「町中でホタルを復活させて、植柳の子ども達に心のふるさとを創りたい」そのような想いの実現に向け、今後も様々な活動を行っていく中で後世に引き継いでいければと願っています。

栽柳園保存期成会長 松浦幹夫

駅伝競走「苦勞様でした」

一月十四日、第十九回八代市駅伝競走が開催されました。八代市陸上競技場九時三〇分スタート、球磨川河川敷折り返しのコースで、植柳校区からは次の方々が出場されました。

- 【一区】 下村明凜 (大福寺) 小六年
- 【二区】 倉田縁希 (下二) 小六年
- 【三区】 稲垣愛美 (下二) 中二年
- 【四区】 早田京平 (大福寺) 大学二年
- 【五区】 内川明紀 (下二) 一般
- 【六区】 前田花那 (上二) 大学二年
- 【七区】 小川泰樹 (上二) 一般
- 【八区】 光本有汰 (元町) 高一
- 【九区】 渡辺太史 (上二) 高一
- 【十区】 小川正泰 (上二) 中三年

【監督】 松下美香 (大福寺町) 敬称は略

選手皆さん、最後まで、力走されました。お疲れ様でした。治道で応援された方々、苦勞様でした。



5区から6区



ゲンジボタルの幼虫

環境美化 町内清掃

昨年、期日はまちまちでしたが、たくさんの方が参加され、公園や広場、公民館などがきれいになりました。



(大福寺町公園) 10/15



(下町公園) 10/22



防災 出前講座 一町

昨年十二月十四日に危機管理課防災係から「災害に対する備えについて」の講座がありました。熊本地震、坂本・人吉球磨豪雨災害、不知火高潮の災害を例にとりあげ、避難、情報伝達のあり方など詳しく説明していただきました。



健康 組くみふれあい会(上二)

十二月十七日組くみふれあい会を植柳小体育館で行われました。参加者の皆さんは、「二コスポーツ」に熱心に取り組んでおられました。



編集後記

▶今年の干支は辰。辰年生まれの方は、生まれつき勇気、粘り強さを持ち、挑戦を恐れず、行動力があり、夢やあこがれに向かって前へひたすら邁進する人が多いそうだ。

▶今年も球磨川河川敷に初日の出を見にいった。気温四度日の出七時二十分頃

球磨川の
川面に映える
初日の出

今年の初日の出は、幻想的だった。皆が幸せで健康でありますように、また戦争のない平和な社会になりますように祈った。

▶突然、一月一日、午後四時頃、石川県の能登半島で最大震度七の大地震が起き、建物の倒壊や津波の被害、地盤の隆起も確認された。一刻も早い復興が望まれる。

▶八代も日奈久断層から震度七程度の地震がいつ起きてもおかしくない状況だ。災害に備えて、避難場所、避難経路の確認、非常用のグッズなどを準備しておきたい。また、能登半島地震の教訓であるが、日頃から隣近所の絆も深めておきたいものだ。いざという時役に立つのでは..

▶昨年の十二月頃からインフルエンザとコロナウイルスの感染症が少しずつ増えている。五類になったとはいえ、用心したいものである。

(上二町内会長 森山雅彰 文責)

